

10月24日(火)4年生授業研究を行いました。先生のテンポの良い発問や切り返しと、4年生の本音で意見を言え合える様子がすばらしかったですね。普段から道徳以外でも話し合う場面を意図的に作り指導している成果が見られました。

令和5年10月24日(火) 第4学年

主題名 よりよい友達関係

内容項目 B9「友情・信頼」

教材名 「大きな絵はがき」

出典 東京書籍



【授業者より】

- ・「あなたがひろ子ならどうしますか？」として考えを交流し、互いの立場で質問し合ったが、そこに時間がかかりすぎた。
- ・3・4年生では「信頼し理解し助け合う」をねらっているため、信頼し合っていることに重きをおいたが、広子の正子への思いを中心に行った方が良かったらうか。

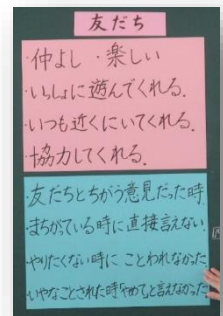
【協議】

<導入>

- ・アンケートの活用

<資料提示>

- ・はがきの大きさによって料金に違いがあること、料金不足の場合についての説明は教材を読む前の知識として話すことで、スムーズに教材へ入れた。
- ・横書きの板書により、二人の関係がよく分かり効果的だった。
- ・はがきを出し合うほど仲が良いことを押さえることで、「伝える」「伝えない」両方の気持ちが出やすくなっていた。



<交流>



- ・活発に意見を言い合い、本音で話す様子があったが発言にかたよりが出ている話に入れない児童もいた。グループ交流で考えを出し合ったり、発言した内容を全体に返したりなどすると良いのではないかと。
- ・道徳での話し合いなので、子ども達が友だちの考えと自分の考えが違ってもそれを受け止めながら議論していくとよい。

<まとめ>

- ・遠く離れていても手紙を出せば友だちという捉えに寄っていたように感じた。アンケートにもどりながら、「本当の友だち」は相手のために言いにくいことを言うことの大切さに気付かせていくと良かったのではないかと。



【指導助言】(☆今後のポイントとなること)

○兵庫教育大学 谷田増幸教授

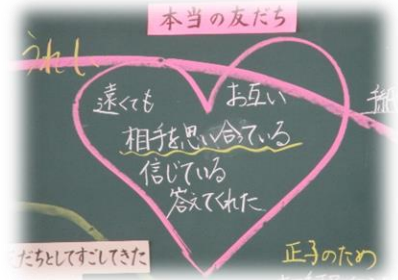
- アンケートの提示は良かったが、ICT を活用してもよかったかもしれない。
- 教材を見せない範読であれば、キーとなる言葉が視覚支援としてあった方がよい。
- 板書が構造的で良い。子どもは板書を見ながら考える。教材によっては時系列で追う板書も必要。
- 「書かない」はわだかまり(モヤモヤ)が残る。「書かない」を選ぶ背景には、自分が悪く思われたくない、傷つきたくないという保身がある。「書く」方には、たとえ自分が嫌われても正子のために…と相手の子を第一に考えている。(教材分析)

☆全員を同じ土俵に乗せるには、出た考えを整理し、まとめることが必要。

- 一般的に山場は一つであるが、今回は山が3つあるなど授業の作りが複雑であった。このような展開があってもいいのかもしれない。

☆書いたことを読むだけでは、深めることにはならない。書いてもいいので、アイコンタクトをしながら話せるようにする。

- 今日新しく学んで欲しいことは何か考えることが大切。



板書計画は作るべきだが、完璧に計画に沿った授業にしようとしてはいけない。計画通りにしようとおきにかかってはダメですよ。

